

博物館とインターネット

鈴木智明 (情報システム担当)

はじめに

博物館からは多くの情報が発信されます。展示されている資料からの情報や、膨大な収蔵資料の情報、学芸員の研究による情報、問い合わせに対する情報などです。

そのような情報は色々な方法や媒体で提供されます。展示でしたら博物館の展示室、収蔵資料については、館が出している図録・目録やデータベースなど。また学芸員の研究成果情報は、紀要や研究報告などを見る、そしてレファレンスについては電話をかけて学芸員に聞いてみる、といった具合です。

このように情報へのアクセスは、実物を見る、本を読む、電話をかける等、方法は様々ですが、最近ではインターネットによる情報の入手が注目されています。

インターネットとは

インターネットとは、複数のネットワークが繋がったものです。元々は、冷戦中のアメリカが、軍事的研究のために始めたARPANETが母体と言われています。ここでは、ある部分が停止しても機能することが出来るネットワークの構築方法などが研究されました(95年の阪神・淡路大震災における電話の不通に対して、ネットワークによる情報伝達の効果を見ると、この研究は成功したと言えるでしょう)。

そして1990年代に入って、画像を表示することが出来る(それまでは、E-Mailと呼ばれる言葉のみの伝達方法が主流でした)WWWブラウザが普及した事などから利用者が急速に広がりました。郵政省では1996年8月で利用者を約500万人と推定しています。また最近では多くの企業や団体が、インターネット上にホームページと呼ばれる情報提供ページを開設しています。このホームページでは、誰でも簡単に世界に向けての情報発信が可能です。当博物館でも1995年10月より小田原市と共同でホームページを開設し、博物館に関する様々な情報を提供しています。(URL: <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/museum/g.html>)

インターネットによる情報提供

インターネットを利用するには、通常はパソコンを使います。このパソコンを通してホームページ上の情報に接することにより、一つの媒体で色々な情報を扱える、といったメリットがあります。「あの博物館は何処にあるの」から「あの博物館には何が展示されているの」、「あの博物館にはどんな資料があるの」、「あの博物館ではどんな研究をしているの」、そして「～について教えて欲しい」といった要求を一つのパソコンで満たすことが出来ます。

またホームページは誰でも開設できます。個人でも多くの人が自分のホームページを持っています。この事は様々な場所や立場での情報発信を可能とします。例えば、今年の7月2日に起きた東京湾沖でのタンカー座礁による原油流出事故では、行政や地方自治体などが、ホームページ上で海の状況や対応策などの情報を提供していましたが、それ以外にもさまざまな関係機関やボランティア団体などが、この事故に関する情報を提供しました。このような情報は新聞やテレビなどではなかなか得ることが出来ず、また、もし得ようとするれば、それぞれの団体等に逐一聞く必要があります。しかし、ホームページで提供されることによって、自分の持っているパソコンから簡単にそのような情報も入手することが出来るのです。

勿論、前述のことが実現できるためには、情報提供側でそれなりのデータ整備等をする必要があります。

前述のタンカーの原油流出事故についても、横浜市や川崎市などのように、かなり詳しい内容を提供した自治体もあれば、何の情報も提供しない自治体もありました。

また、インターネットを取り巻く技術環境も、例えば現在のように通常の電話回線(28.8Kbps)でのやり取りが主流の状況では、画像などデータ量の大きいものを扱うには、かなりの時間が必要です。

さらに、パソコン上で見ることが出来ても、所詮、本物にはかないません。博物館にとっても、主役はやはり実物

の資料です。何があるかを知ることは出来ても、そのものを生で見ることが出来ないのです。

現代は情報化社会であると言われていています。携帯電話、ポケベル、デジタルカメラ、そしてプリント倶楽部まで、最近のヒット商品はすべて情報を扱ったものです。通産省が発表した「97年版・我が国産業の現状」によると、情報関連機器の国内生産額が自動車を上まわり、品目別で初めて1位となりました。その中でもトップがパソコンです。このようにパソコンが普及し、またネットワーク環境が整備されれば、情報提供側でも積極的にインターネットを利用することでしょう。

また、博物館の展示にしても、実物を見ることは出来ませんが、展示のストーリーについて知ることが出来ます。博物館は、ただ資料を並べているのではなく、例えば当館の場合は「生命の星・地球」をテーマに、46億年に及ぶ地球や生物の進化の歴史について、良く理解していただけるようストーリーを作り、それに基づき資料を展示していますが、そのストーリーを詳しく説明したものをホームページでは提供しています。予備知識を持つことによって、より効果的に展示を見る事が出来ます。

さいごに

7月4日にNASA(米航空宇宙局)は、探査機「マーズ・パスファインダー」の火星着陸に成功しました。またホームページに探査機から送られてきた火星の画像を公開しました(当日、数千万件のアクセスがあったそうです)。私が小学生のときに見た火星探査機「ヴァイキング」による火星の画像は、時間が経ってから本や雑誌等で見ることが出来ましたが、今ではインターネットを使って即時に詳しい解説とともに(英語ですが)、自分の机で見ることが出来るのです。

博物館もより有効な情報提供手段として、インターネットによる情報提供を進めています。今度博物館に来られるときは、ホームページを覗いてから来られてはいかがでしょうか。